

【ひばりヶ丘音楽】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	西東京市住吉町 4-6-12
園名	アスクひばりヶ丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の鳴る仕組みを考えよう

<テーマの設定理由>

歌を楽しむ姿があり、楽器への興味をありそうだったので、このテーマにしました。劇あそびへの発展や楽器製作へを広げていけると良いと思っています。様々な楽器の中から、楽器の音の鳴る仕組みに興味を持ちながら、リズムやおんがくに親しみながら探求出来るようにしていきました。

2. 活動スケジュール

6月から、音にはどんな音があるのかを探求し、聞こえる音からオノマトペにしたり、どのような物の中に入れるとどんな音をするのか探求しました。月に一回キャスト講師に来ていただき、次の探求をどのように進めて行くのか相談しながら進めた。8月頃からは、音の違いから、楽器には種類があることを学び、自分たちで楽器の種類を分けてみたり、手作り楽器を作成して遊びました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

紙コップ、トイカプセル…中身に様々な物を入れて音の違いを探求する物。(全クラス)

リボン、紐、スズランテープ、ドリンクキャップ、金属の金型、粘土、クッキーの型…紙コップの中に入れる物。(全クラス)

絵本「もこ もこもこ」、絵本の BGM、絵カード、オノマトペの絵本…絵を見てどんな音かを想像する為のもの。(3歳児)

楽器カード、模造紙…楽器を4種類に分けて考えるための物。(4,5歳児)

エッグマラカス、鈴、木琴、鉄琴、中太鼓、ウッドブロック、ドラム、ドラムスタンド…音を鳴らして音の違いを考える物。(4,5歳児)

テープの芯、テープ、風船、ゼリーのカップ…風船太鼓作り(4歳児)

牛乳パック、ブロック、プラレール…雷の音を探求する物。(3歳児)

ダンボール、輪ゴム、スプーン…楽器作り(5歳児)

画用紙、色鉛筆、クレヨン、スピーカー…オーケストラの音を聞いて、イメージする動物を描くもの。(5歳児)

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：音という身近な題材を通して、3歳児が感じた事を自由に表現できるよう、「どんな音に聞こえるかな?」「同じ音かな?違う音かな?」「どうしたらその音が作れるかな?」と正解を求めない問いかけを行った。

オノマトペや絵本、自然事象(雨・雷など)を題材に、音を「聞く」だけでなく「言葉にする」「体で表す」「再現してみる」ことを大切にし、紙コップや牛乳パック、廃材、保育室にある身近な物を使って、自分なりの音のイメージを広げられるよう問いを重ねていった。また、「雷の音ってどんな音?」「雨にもいろいろな音があるね」と子どもたちの発言や興味に合わせて問いを発展させ、音の違いや感じ方の違いに気づけるよう関わった。

探究活動の様子：絵本やオノマトペをきっかけに、まずは「どんな音に聞こえるかな?」

と、音を感じて言葉にする事から活動を始めた。紙コップやトイカプセル、牛乳パックなど身近な素材を使い、同じものでも入れ物や振り方によって音が変わることを比べながら楽しんだ。活動を重ねるうちに、子どもたちは「雨の音みたい」「アリが歩いているみたい」「うるさい音になった」など、音を自分なりの言葉やイメージで表現するようになり、音への興味や関心が高まっていった。

雷や雨などの自然現象を題材にした活動では、「雷の音ってどんな音?」「どうやったら雷の音になるかな?」と問いかける事で、保育室にあるものを使って音を再現しようとする姿が見られた。壁や床を叩いたり、こすったり、ブロックや廃材を使ったりと様々な方

法を試しながら音を作り出していた。

また、小グループで活動酔する事で、「こっちの方が雷っぽい」「その音も良いね」と友達同士で音を聞き合い、話し合う姿が見られた。

一人では思いつかなかった表現も、友達の音や動きから刺激を受け、探求が広がっていった。さらに、作った音を使って体を動かしたり、オーケストラの雷の音を聞いたりする中で音だけでなく「次に雷がきそう」「大きな音だね」など、流れや強さを感じ取る姿も見られた。楽器（バスドラム）を知る事で「本物の音」への興味にもつながっていった。

こうした活動を積み重ねる中で、音や楽器に対する興味・関心がさらに高まり、発表会では、自分たちで手作りした楽器を鳴らし、嬉しそうにしたり、「こんな音が出るんだよ」と、友だちと楽しんだりする姿へとつながっていった。日常の探究活動が、子どもたち自身の表現の場へと結びついていくことを感じられた。

ふりかえり(保育士の気付き)：音は、子どもたちにとって身近でありながら、「聞く」

「感じる」「言葉にする」という経験は、これまで意識的に深めてこなかったことに気付いた。活動の初めは、音を聞いても「なんとなく楽しい」で終わったり、どう表現したらよいのか分からず戸惑う姿も見られた。

しかし、活動を重ねていく中で、「雨の音みたい」「アリが歩いているみたい」「うるさい音になった」など、子ども達は少しずつ自分の感じた音を、言葉やイメージで表現するようになり、音への興味や関心が深まっていく様子が見られた。保育者として、素材や環境を整える事は意識しつつも、「この音を作ろう」「こう表現しよう」と方向づけすぎないよう心掛けた。子供たち自身が試し、考え、比べる中で、探求が広がっていくことを大切にしたい。

また、「何を使ってもいい」「どんな音でもいい」という問いに対し、最初はどのようにしてよいか分からず立ち止まる子もいた。しかし、「どんな音でも間違いはない」「自分が聞こえたなら、それでいい」と伝える事で、安心して音を探し始め、友だちと音を聞き合ったり、意見を伝え合ったりする姿が増えていった。

活動を通して、保育者が一歩ひき、必要な時にそっと声をかけたり、背中を押したりすることで、子ども達は自分の力で探求を進めていける事を実感した。

この活動を通して、子どもたちが自分の感じた事を大切に、主体的に表現していく姿に大きな成長を感じる事が出来た。

【4 歳児実施分】

問いを考える：「音の鳴る仕組みを考えよう」

最初は、紙コップの中に様々な物を入れて、どのような音が鳴るのかを考えてみた。入れる物の大きさが異なるとどう聴こえ方が変わるのかオノマトペで表してみよう！大きさだけでなく、物が違うとどうなるの？音の鳴る楽器は、沢山あるけど、どのように分類されているの？と問いを重ねて、風船太鼓を作り、音自体を楽しんだ。

探究活動の様子：紙コップの中に、ドリンクキャップを入れて音を楽しんだ後に、保育園にある物を入れて様々な音を楽しんでいた。スズランテープなどの柔らかい物を入れてみると、音が鳴らない為、すぐに飽きて別の物を探しに行っていた。普段使っている粘土を入れてみたいと、子どもたちからの要望で、粘土を様々な形にして入れてみると、「平べ

まったくすると音が鳴らない」「(紙コップに粘土をたくさん入れると)音がしない」などの意見が出ていた。「これはどうかな?」と次々に試してみたり、友達の様子を伺いながら、自分も同じように挑戦してみる姿があった。音をオノマトペで表してみると、グループ内でも様々な意見が出ていた。「カタカタ」「コトコト」と表していた所が、中身を入れ替えて少し重い音がした時には、「ガタガタ」「ゴトゴト」と濁点を付けて表していた。様々な楽器がある中で種類に分類をしてみると、すぐに理解した子が率先して、自分の考えをグループ内で伝えていた。「これはまくめい楽器だ」「そこじゃないよ」と考えていた。答え合わせでは、「フーっとするから」「紐があるから」「太鼓と同じだから」と考えを言葉で伝えていた。

木琴・鉄琴・中太鼓とそれぞれどうやって音が鳴っているのか?という問いに、すぐには理解が出来ずにいたが、太鼓の表面の膜が「叩くと揺れる」と気づいたり、鉄琴と木琴の「形が同じだね」と触れたり、形に注目をしていた。「太鼓の中には何が入っているの?」と新たな疑問が生まれ、風船太鼓を作ってみると、風船太鼓の音の小ささに気づいていた。どうすると大きな音になるのかを考え、色鉛筆などの物で叩いてみる様子も見られた。

次の活動では、実際に大太鼓と小太鼓を使って太鼓に触れたり、太鼓の叩き方や、音の大きさを体験し、「小さい太鼓は叩く場所がザラザラしている」「大きい太鼓はつるつるしている」「太鼓を叩くと跳ね返ってくる」「お祭りの音がする」「叩く場所が違くと音が違う」など触ってみて違いに気付いたり、叩き方を変えたり、実際に体験した音と重ね合わせたりしながら友だち同士で伝え合う姿があった。

太鼓を使ってみて、「他の楽器はどんな音がするの?」と興味を持ち、タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングルなどの楽器に触れ、「どんぐりころころ」「きらきらぼし」「チューリップ」の楽曲に合わせて鳴らし、それぞれの楽器の音の違いや、音の大きさを比べていた。

ふりかえり(保育士の気付き):紙コップの中身の違いで音が変わるのであれば、キャップ以外の物を入れるとどうなるのか?など新たな疑問が自然と生まれていた。「キャップ以外の物」は基本的に身近な物を発想する子が多く、音だけに着目せず、紙コップを持つ手の振り方や強弱にまで考えが発展していた。紙コップに同じものを複数入れる活動では、「何個入れたからこの音」という固定した考えはなく、個々に思ったことを伝え合う姿を見ることが出来て良かった。お互いに感じた事を伝え合う中で、「僕はこう思う」と自信を持って発言する子と、「こうかな?」と不安な様子で発言する子がいた。子供たちの経験してきた中から、似ている音を探したり、発想を巡らせたりする様子を見て、実際に経験をする事の大切さを学んだ。

【5 歳児実施分】

問いを考える：「音の鳴る仕組み」について、中に入っている物で音が変わるのか、入れ物の材質はどうかを問いかけながら、実際に様々なもので試しながら考えた。そこから、色んな楽器があること、「きめい楽器」「たいめい楽器」「まくめい楽器」「げんめい楽器」という風に分類できることを知り、身近な楽器が何に分類されるのかを考えた。さらに、自分たちで楽器をつくってみよう、と提案し、身近な材料を使って作り、どう分類できるかも話し合った。そして、様々な楽器で演奏するオーケストラを知り、みんなで合奏をする中で、どうしたら綺麗な音になるかを考えた。

探究活動の様子：紙コップを用意し、室内にあるものを入れてみて、どんな音になるかを聞かれると、「カタカタ」「コトコト」など表現していた。また、同じものを入れても、1個と複数では、「ガタガタ」「ゴトゴト」とオノマトベが変化することに気付いていた。何個だからこの音という固定した考えではなく、一人一人が個々に思った音を伝え合っていた。

エッグマラカスと鈴を渡し、どうして音が違うのか問いかけると、「外側がちがう」「中に入っている物がちがう」などそれぞれ考えを発表していた。

講師から「きめい楽器」「たいめい楽器」「まくめい楽器」「げんめい楽器」という種類に分類されることを聞いた。グループごとに楽器カードを分類したが、楽器のカードを見て「これはまくめい楽器だ」とすぐに分かる子が率先して「これはちがうよ、こっちだよ」と導いていた。答え合わせで「どうしてこの楽器なの？」と聞かれると、「ふーってするから」「ひもがあるから」「太鼓と同じだから」と理由を話していた。

また園でのグループワークでは、どんな楽器を知っているか話し合った。「ピアノ」「鍵盤ハーモニカ」「太鼓」「ドラム」「トランペット」など様々な楽器があがり、そこから分類表を見ながらどの楽器の仲間か分類した。「叩くからたいめい楽器じゃないね」「弦はないから弦楽器じゃないね」など演奏方法からそれぞれの考えを話し合っていた。

絵本から引用し、みんなで楽器を作ることにした。3種類の楽器をつくるグループにわかれて、身近な廃材を用いて、段ボールのギロ、ペットボトルキャップのカスタネット、段ボールと輪ゴムのギターをつくった。完成した楽器をそれぞれ全員が触れるようにし、どの楽器の分類に当てはまるか話し合った。

オーケストラの曲を聞いてみて、どんな楽器が聞こえるか発表し合った。「ピアノがある」「ギターみたい」「シンバルじゃない？」と様々な意見が出た。実際に曲と映像を見て答え合わせをすると、予想と違った楽器の登場に驚きつつも、「なるほどー」と納得してい

る子もいた。

講師から、オーケストラの曲を聞いてどんな動物をイメージするか聞かれ、「ライオン」「象がゆっくり歩いている」「ティラノサウルス」などの意見が出た。実際にイメージした動物になりきり、歩いてみると四つん這いの子や二足歩行の子など様々だった。

みんなで合奏をしてみようということで、ピアノ、タンバリン、トライアングル、スネアドラム、鉄琴、木琴を使って合奏をした。「私はタンバリンをやってみたい」「鉄琴ってどんな感じだろう」と楽器に触れる嬉しさを話していた。実際に演奏してみると、「かっこよくなった」「色んな音が混ざって綺麗だった」と感想を話していた。オーケストラみたいだね、と伝えると、「確かに！」「オーケストラみたいに出来た！」「もう一回やってみよう」と話していた。

発表会でも合奏をやりたいということになり、様々な楽器に触って合奏をしてみた。「今日はドラムをやってみよう」「トライアングルがいい」など、それぞれが好きな楽器を選んで合奏をした。また、リズムを大切にしている演奏と、そうではない演奏はどのようにちがうのか体験すると、「なんか綺麗に聞こえなかった」「もっときれいにするには音が揃っていないとだめだね」という意見が出た。そこから、ピアノの音を意識しながら演奏をしてみると、「こっちがいい」「すごい綺麗」「楽しかった」と肯定した意見が出た。そして、講師から演奏のアドバイスをもらい、それを意識して演奏すると、さらに良くなったと、子どもたちも自信がつき、オーケストラのように音が重なり合う綺麗さや、演奏することの楽しさを感じていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：最初は自分の意見を言う事にためらう子もいたが、何回も活動を行う事で、それぞれが思いを発表できるようになった。4種類の楽器に分類するところは少々難しさを感じていた子もいたが、演奏方法を考える事でイメージがわかりやすくなったようだった。グループワークにしたことで、それぞれが意見を出して話し合うことが出来てよかった。同じ音でも個人によって感じ方は様々で、それを言葉で表現する力がついていることに気付いた。そこから様々な楽器に興味を広がり、オーケストラから合奏にも発展し、発表会への意欲にもつながっていった。

楽器は3種類つくったが、それぞれにイメージしたものを作ってみてもよいと思った

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。



(HP などで

公開する可能



性があります

ので、公開可

※写真の掲載は、保護者の同意を得た上で掲載いたします。

5 歳



【ひばりヶ丘体操】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	西東京市住吉町 4-6-12
園名	アスクひばりヶ丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界のスポーツってどんなものがある？

<テーマの設定理由>

園庭が広い為、様々なスポーツを試しながら、体を動かすことが出来ると考えました。体を動かす事が好きなクラスが多いのも、テーマ設定理由です。クラスによってルールを守れるクラス、守ることを忘れてしまうクラスがあり、子どもたち自身がどのように考えて探求していくのか見てみたいと思いました。

2. 活動スケジュール

6月～2月まで探求を行い、「世界のスポーツ」という大きなテーマだと具体的にイメージする事が難しく、「世界」って何？「スポーツ」って何？という問いから始め、子どもたちが考えやすいように分かりやすくして、探求していけるようにしました。

クラスによって探求方法が様々な為、備品の使用などにもばらつきが出ていました。月1回キャストの講師に来ていただき、より探求が深まるように助言した頂いたり、一緒に探求を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

地球儀…世界をイメージするために使用。(3歳児)

保護者が検索して印刷した写真…保護者と共に探求をしてもらった。(3歳児)

ホワイトボード、マーカー…聞き取りをした事をその場で書き留めるもの。

カラーボール、お化けの的…野球の真似をして投げてみた。(全クラス)

画用紙、新聞紙、ガムテープ、ビニールテープ…手作りボールに使用。(4歳児)

スポンジボール、ティッシュペーパー…様々な素材で遠くに投げられるか探求した。

(5歳児)

ボッチャ…ボッチャという道具を使用し、どのような遊び方が出来るのか探求した。

(全クラス)

紙コップ、段ボール、厚紙、ハサミ、テープ…自分で考えてバット作りをした。(5歳児)

鉄棒、リボンに見立てた縄、マット…鉄棒にぶら下がりながら、どのようにしたら体が動くか、また、ロープを上手に回す為にはどのような身体の使い方をすると良いかを探求した。(3歳児)

ジップライン…大人の使用方法を聞き、子どもたちはどのように使用するのかを探求した。(5歳児)

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】問いを考える：世界に様々な国があり、それぞれの国で親しまれているスポーツがある事を知る。

また、実際に身体を動かしてスポーツを体験する中で「どうしたらできるか」「なぜそうなるか」を考え、自分なりに試す楽しさを味わう

- ・世界にはどんなスポーツがあるのかな
- ・このスポーツはどこ国のものだろう
- ・スポーツってどんなことをするの
- ・どうやったらボールは遠くまで届くのかな
- ・どうやったら的に当たるかな
- ・身体はどうやって使ってる？
- ・見た事のない道具だけど、どうやって遊ぶと思う？

・どうなったら勝ちにする？どんなルールが楽しいかな

探究活動の様子：地球儀や写真を通じて、世界には様々な国がある事を知り、それぞれの国で行われているスポーツに触れてきた。最初は国とスポーツを結びつけるのが難しかったが、繰り返し活動する中で「アメリカの野球」「日本の相撲」など、少しずつ関連付けて考えられるようになっていった。

ボールを使った野球ごっこでは「遠くに投げる」「的に当てる」「転がす」など、目的に応じて体の使い方を工夫する姿が見られた。「足をこうする」「腰を回す」「目はここを見る」など、自分なりの気づきを言葉にしながらかけて試していた。

鉄棒やマット、縄、布などを使った体操ごっこの活動では、それぞれの動きを体験したり友達の動きを真似したり、できたことを認めあったりする姿が見られた。

ポッチャでは、名前やルールを最初に伝えず、見て・触って・感じる所から始めたことで、世界にはこれまで知らなかったスポーツがある事に気づく姿があった。また、遊び方や勝敗の決め方を話し合いながら、自分たちでルールを作ろうとする姿も育っていった

ふりかえり(保育士の気づき)：3歳児にとって「世界のスポーツ」を知る事は、知識として覚える事ではなく、実際に身体を動かして感じ、試すことを通じて理解していくものだと感じた。

問いかけを通して考える時間を持つ事で、子どもたちは失敗も含めて楽しみながら挑戦していた。

また、友達の動きを見て学び合う中で、探求が一人から集団へと広がっていった。

世界のスポーツをテーマにしながらも、「どうやったらできるか」「どうやったら楽しいか」を自分たちで考える経験が、子どもたちの主体性や意欲につながっていると感じた。

【4歳児実施分】

問いを考える：「世界」と「スポーツ」の種類に分けて知っている事を引き出した。「世界」と聞いて、理解をする子が少ない中、「スポーツ」と聞くと、運動遊びに近い意見が上がってきた。子供たちの意見から「日本」「アフリカ」「アメリカ」「韓国」4つの国にはどのようなスポーツがあるの？の問いから、アフリカでの手作りボールに着目し、ボールで何が出来るのか？を探求した。「野球」というスポーツは、どうやって投げているのか？的に当てるためにはどうやって投げるの？と問いを深めていった。

探究活動の様子：4グループに分かれ、「日本」には相撲があり、「アフリカ」のチームではあまりイメージがなく、思い浮かべる事が出来ず、タブレットで調べると、サッカーをしている様子があった。手作りボールの写真を見て、なぜ手作りボールを使っているのか？を考えた。お金がない、お店がない、ボール自体がないなど、手作りにした背景を考

え、次々に言葉にしていた。「アメリカ」では、アメリカンフットボールが思いつき、どんな遊び方なのかを考えた。「韓国」では、テコンドーを見て、空手をイメージし、身近な物と結び付けて考えていた。子ども達の興味が「手作りボール」に向いていたので、思い思いの手作りボールを作った。画用紙や新聞紙、ガムテープで世界に一つだけのボールを作り、そのボールを使ってどのような遊びが出来るのか考え、「的当て」「キャッチボール」などの意見が出ていた。自分で作った手作りボールと友だちが作った手作りボールはどんな違いがあるのか考えた。その中で色や形の違いへの気づきがあり、何の素材で作ったのかなど疑問に思った事はその場で友だちに聞いていた。「こっちはパパ」「こっちは自分」など、大きさから親しい人に例える子がいた。違いを調べた後は実際に手作りボールを使って的に向かって投げて遊んでみた。最初はそれぞれが思うようにボールを投げ、どうしたら的に当てる事が出来るのか考えた。「腕の振りが小さいより大きい方がいいかも」「腕を上にした方がいいかも」と意見が出た。次の活動では大きいカラーボールと小さいカラーボールを使って同じように的に狙って投げ、手作りボールとどんな違いがあるのか考えてみた。「的までの距離が近い方がいい」「手作りのボールはデコボコしていて投げにくい」「大きいボールが投げやすい」と手作りボールとカラーボールとの違いを見つけて友達に伝えていた。次に、園にあったボッチャを使い世界のスポーツを実際に体験した。初めに、ルールを伝えずボールの使い方、的に使う方をクラスで話し合って決めて遊んでみる事になった。「的にボールをどうやって使う？」と保育者から問いかけられると「的に壁に貼る！」「ボールは一個ずつ」「的に当て！」と意見が出たので実際に遊んでみた。遊んでみると「ボールが重い」「ボールが硬い」「重いから強く投げられない」「投げるんじゃなくて転がして使う物なの？」と友だちと伝え合い、違う使い方がある事に気付く子がいた。ルールを知り、遊んでみると「今のは少し弱かったかな？」「もう少し強く！」「赤チームの方が多い点数だ」と色々な視点から考え発言をしていた。その後「ボッチャって他にはどんな遊びがあるの？」と興味がある子が多くいた為、ボッチャを使った新しいゲーム遊びをクラスで考える事になった。話し合いの中での的に当てる意見が多く出ていた中、「猫とネズミゲーム」と意見を出してくれる子がいた。「どんなゲーム？」と問いかけると「猫がボールを当ててネズミを捕まえる」内容のゲームだった。それを聞くと「やってみよう！」「面白そう」と賛同の意見が多かった為、細かいルールを考えながら実際に遊んでみる事になった。意見を出してくれた子がネズミは的にの中を逃げ回る事、猫は的にの中のネズミにボールを当てるとの二つのルールを皆に伝えてくれた。ゲームをしてみて「ネズミが全部勝ってる」「ボールを投げる距離が遠い」「ネズミの人数が多い」とボールを投げるチームが一度も勝てない事に気付きどうしたら勝てるようになるのか皆で話し合った。話し合いの結果「ボールを投げる距離を短くする」「的に挟むようにして両側からボールを投げる」「逃げる側の人数を減らす」とルール変えてもう一度遊んでみた。ボールを投げるチームも逃げるチームもお互いに勝ち負けが付くようになり、喜びや悔しさの感情をチーム同士で共有し合っていた。最後には「またやりたい」「もっとやりたかった」「めっちゃ楽しかったね！」と保育者に伝え、友だち同士で出来上がったゲー

ムの感想を伝え合っている姿があった。

ふりかえり(保育士の気付き)：世界のスポーツを教えてもらう、考えるだけではなく自分の力で調べる事で更にスポーツに興味と関心を持ちながら参加し、グループごとの発表では一人ひとりが自信を持って発言する事が出来ていた。興味、関心が持てると自然にもっと知りたい、やってみたい気持ちが大きくなりそこからゲーム遊びや手作りボールの作成などどんどん発展して行く事が出来た。実際に動いてやってみる事で「今度はこうしよう!」「こうしたらいいんじゃない?」と意見が飛び交い、回を重ねるごとに積極的に発言をする事ができるようになっていった。また、活動を通して普段の遊びの決め方に変化が見られ、今までは一人が「〇〇であそぼう!」と言うとその案だけで遊びを行っていたが、今では「この遊びが終わったら次はこれしたい」などお互いが意見を出し合い自分の意見を言う事、相手の意見を聞くことを活動を通して学び、意識しながら生活を行えるようになった。

【5 歳児実施分】

問いを考える：まずは「世界」と「スポーツ」に分けて、知っている事はあるか問いかけた。そこから自分たちで調べた国とスポーツを発表した。様々な国とその国のスポーツを知り、実際にやってみた。そこからどうしたらボールは遠くに飛ぶのか、道具をつくってみよう、初めて体験するスポーツはどんなルールか、どんな遊び方ができるかなど、話し合ったり、試してみたりしながら考えた。

探究活動の様子：最初に「世界」と聞いて「宇宙」「惑星」「外国の人」など大きなイメージを発表していた。そしてどんな国があるか聞かれると、「日本」「アメリカ」など聞いたことのある国を挙げていた。「沖縄」「北海道」などの地名も出てきた。「スポーツ」では、サッカーや野球、バレーボール、自転車など身近な運動遊びに似たものを思いついている子が多かった。

それぞれ国とスポーツを調べ、どの国の発祥のスポーツかを考えた。正解を知るとともに、国旗のイラストや、料理、スポーツの動きなどを真似してみても体と頭を動かした。そして、日本の伝承遊びでもある「はないちもんめ」をやってみた。ルールを覚えながらも友だちと手をつないで歩く動きが楽しい様子だった。

次にアメリカのスポーツである野球をすることになり、ボールを手で打ってみたり、投げてみたりした。手で打つ事の難しさを感じ、タイミングが合わずに空振りする子もいれば、前に飛ばせるようになった子もいた。どうしたらボールが遠くまで投げられるか、と問いかけられ、グループで意見を出した。実際に身体を動かしながら考えるグループや、話し合いを進めていくグループなど様々だった。「軽い方が遠くまで投げられる」「力いっば

い投げる」「斜め上に向かって投げる」など意見が出た。実際にその意見をもとにやってみると、素材や投げる方法で距離が変わることが体験できた。

おぼけの的を貼り、目標に向かって投げる、どうやったら上手くコントロールできるか、やりながら考えた。的があることで前に投げやすくなった。正確に投げるには身体の使い方が大切であることを聞き、全身を使って投げる事で、より正確に投げる事ができた。

みんなでバットをつくってみよう、まずはバットってどういう形か、ボールを打つには長さが必要だと考える子がいた。また、頑丈であること、幅が広い方が打ちやすいなど様々な意見が出た。実際にボールを打ってみて、良かった点や改善点を話し合った。打ち方に関しては、「もっと上に向けた方がよかった」「強く振る」「ボールを見て振る」など意見が出た。体験を通してどうしたら良くなるかを話し合い、実際に改善されると、打ちやすくなり、ボールが当たる確率が上がった事を喜んでいた。

様々な道具を使って身体を動かそうということで、「ボッチャ」「リズムジャンプライン」「ラダー」という道具を用いた。ボッチャはルールを伝えて実際にやってみた後、体のどの部分を使っていて、どのような人でもできそうか問いかけると、「おじいちゃん」「赤ちゃんもできそう」など発言があった。車いすの人や下半身に障害がある人もできるスポーツだと伝えると納得した様子だった。

道具を使った運動遊びでは、横に渡ったり、友だちの動きを真似してみたり、「ゆっくり歩くと落ちないよ」など声をかけながら楽しむ姿が見られた。また、講師の声に合わせて足を閉じたり開いたりするゲームも行った。見ている時は簡単そうでもやってみると難しく、掛け声と反対に動いている子が多かった。どうしたら間違えずに素早く動けるか、と問いかけられると、「次に来るものを予想してジャンプする」「言われたら速く動く」といった意見が出た。その意見をもとに行うと、先ほどよりもよく反応できていた。

ラダーでは、今までの動きを思い出しながらそれぞれ話し合い、「前後ろの足の動きでリレーをしてみようよ」「綱渡りみたいにするのはどうかな」と、個々に伝え合っていた。実際にやってみると、「それいいね」「つま先だけでやるのがいいよね」「次はもっと速くやってみよう」など共感しながら声をかけ合う姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：運動遊びが好きなので、それぞれが考えながら様々な動きを話し合い、実際にやってみるとということで、自然と子どもたち同士で話し合う環境が生まれてよかった。

世界のスポーツという大きなテーマで、最初は世界の国のイメージがあまりつかない様子だったが、身近な国から挙げていき、一緒に調べたりする中で少しずつ様々な国を知ることができた。後半は色んな道具を使った運動遊びだったので、もう少し世界のスポーツというテーマに合わせたものやってみてもよかった。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。



(HP などで

公開する可



能性がありま

すので、公

問可能なものをお付けください。)

5 歳児

